

巻頭のご挨拶

社団法人 北海道林産技術普及協会

会長 高橋 秀樹



皆様 明けましておめでとうございます。

平成 24 (2012) 年の新春を会員皆様と一緒に喜び申し上げます。

また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年の干支は龍（たつ、リュウ）です。日本暦の十二支の中で唯一実際に存在しない動物の龍であります。中国神話の生物であり、空を飛び海を泳ぎ、大声で咆え、角と牙と爪を持ち、赤い目を光らせ、人間が考え得る恐ろしさを全て集結した動物であります。その意味で**本年は人間の直感や創造力を再認識すべき年**と言えるでしょう。

昨年平成 23 (2011) 年は日本の歴史に永遠に記憶される年となりました。

3月11日、東日本大震災が発生し、大地震と大津波で、2万人におよぶ死者行方不明者と全国で百万戸の建物が破損・倒壊しました。

さらに福島原子力発電所が破壊され、放射能による被害が広域に及んでおります。

これは想定外の出来事、人間の力が及ばない神の仕業、天災、なのでしょうか？

現在の科学では地震と津波の発生を止めることはできない故、天災と言えます。

しかし地震の予知、防災、防波堤の規模、都市計画、避難体制、原発立地の条件などは、人間の仕業ゆえ、人間の直感力と科学的なシミュレーションで予測され得た世界であり、それらを社会的な事情で無視した結果、被害が増大したと言えます。

しかし「直感」で危うさを指摘したり、正誤を述べても、人間の直感だけでは社会は納得しません。やはり科学的理論とコンピューターシミュレーションで証明せねばなりません。その意味で平成 23 (2011) 年11月に、日本の次世代スーパーコンピューター「京」が世界一になったことは誇るべきことで、今後あらゆる危機管理に利用すべきと思います。

同じ11月に京都大学が樹立したIPS細胞の關係に米国特許が認められました。これは組織や臓器の再生医療に道を開くものであります。

やはり科学は常にNO1を目指さねばならぬものであり、目指した結果と言えます。

林産試験場も「木辺科学・化学」のNO 1 研究機関として存在感を見せております。

- ① 脱原発の有力候補としてのバイオエネルギーの研究
- ② 木材細胞からのエタノール、キシリトールなど有効成分の抽出
- ③ 木材利用推進のための圧密フロアの研究、木製ガードレールや準不燃木材の開発
- ④ 公共建築物等木材利用促進法のため強度や安全性の証明
- ⑤ 木材が人間の生理に良いという科学的な考察
- ⑥ 自然食品のきのこ研究

など、多岐にわたり研究されております。

私達は木材の良さを肌で感じており、また優れた材質であることを経験的に知っています。これを科・化学的に証明して木材を普及させる。また創造力を働かせ新しい需要を開発するなど林産試験場の研究員の皆さんの活動に敬意を表しております。

北海道林産技術普及協会は来年で 60 周年を迎えます。

また本年から一般新法人となり、これを機会に「北海道立総合研究機構・森林研究本部・林産試験場」様と民間企業との架け橋としての仕事や木材普及活動をさらに活発化させる所存でございます。

本年も皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。